

2023年11月10日

COP28直前ウェビナーシリーズ第1回

「政治的局面を迎えるグローバル・ストックテイク 世界の軌道修正成るか」

グローバル・ストックテイク (GST) 実施状況とCOP28の焦点

IGES 気候変動とエネルギー領域 フェロー
津久井 あきび

COP28の注目は第1回グローバル・ストックテイク（GST）

パリ協定の長期目標達成に向けた**世界全体の進捗**を**5年毎**に評価する仕組み
削減目標（NDC）の更新・強化と国際協力促進のために**情報を提供する**

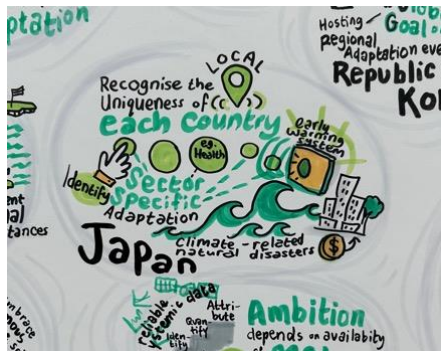
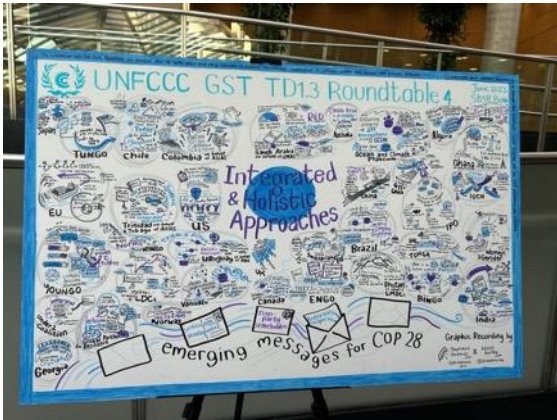


写真:発表者撮影

GSTで気候変動対策の強化に資する成果が出せるかがCOP28の成功を左右する

よく聞かれる質問、本日お伝えすること

なぜCOP28でGSTが重要なのか？

GSTが成功するとは？何が成果に含まれているべきか？

COP28での議論はどのように追えば良いか？

よく聞かれる質問、本日お伝えすること

なぜCOP28でGSTが重要なのか？

GSTが成功するとは？何が成果に含まれているべきか？

COP28での議論はどのように追えば良いか？

GSTはパリ協定における目標引き上げのマイルストーン

パリ協定の長期目標達成に向けた**世界全体の進捗**を**5年毎**に評価する仕組み
NDC更新と国際協力促進のために**情報を提供する**

パリ協定長期目標

- 気温上昇を2度未満・1.5度に抑える
- 気候変動への適応能力を高める
- 資金の流れを温室効果ガス排出が少ない開発に合わせる

各国の目標

自国が定める貢献
(NDC)

(第4条, 5年ごとに更新)

隔年透明性報告書 (BTR) :

- 排出量の情報 (インベントリ)
- NDC実施と進捗の事後報告

GSTの成果を活用して
削減目標を引き上げる

野心度引き上げ
メカニズム

その他の情報源

例)

- 最新のIPCC報告書
- 各国の意見書

グローバル・ストック
テイク (GST)

(第14条, 5年ごとに評価)

強化された透明性枠組
(ETF)

(第13条, 2年ごとに提出)

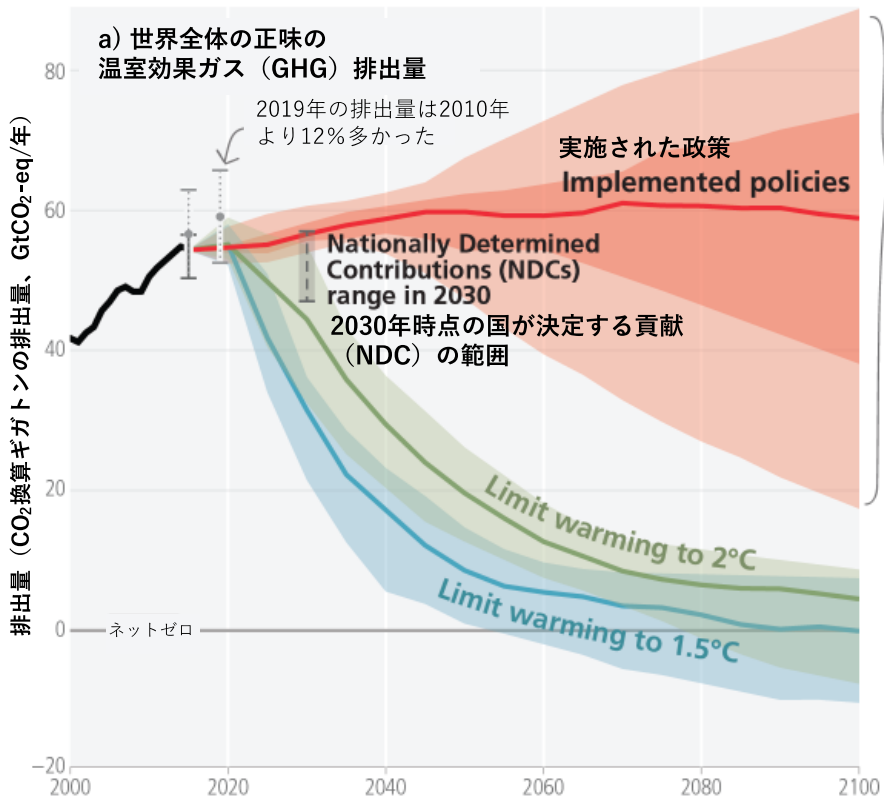
情報提供

世界全体の進捗の評価

各国の実施報告

略語
NDC (Nationally Determined Contributions): 自国が定める貢献
ETF (Enhanced Transparency Framework): 強化された透明性枠組み
BTR (Biennial Transparency Report): 隔年透明性報告書
IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change): 気候変動に関する政府間パネル

GSTに期待されるのは、NDC目標や今後の気候変動対策の強化につながる成果を出すこと



実施された政策の結果、
2.2~3.5度の温暖化をもたらす
排出が予想される

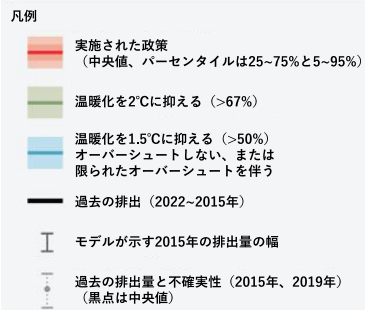
“温暖化を1.5度と2度に抑えるには、急速かつ大幅で、ほとんどの場合緊急の温室効果ガスの排出削減が必要である”

(IPCC第6次評価報告書統合報告書 Figure SPM.5)

- 排出ギャップ：現時点で各国が掲げる排出削減目標を足し合わせても、気温上昇を2度または1.5度に抑えるには不十分である
- 実施ギャップ：各国が掲げる政策や対策では、削減目標は達成できない

ここに注目

ギャップを埋めるための削減目標の引き上げと対策強化につながる方針や方策を示し、行動を後押しする強い政治的メッセージを打ち出せるかどうか



ポイント1：GSTの評価対象は緩和だけではない

評価分野

緩和

適応

実施手段と支援
(資金、技術、
キャパシティ・ビルディング)

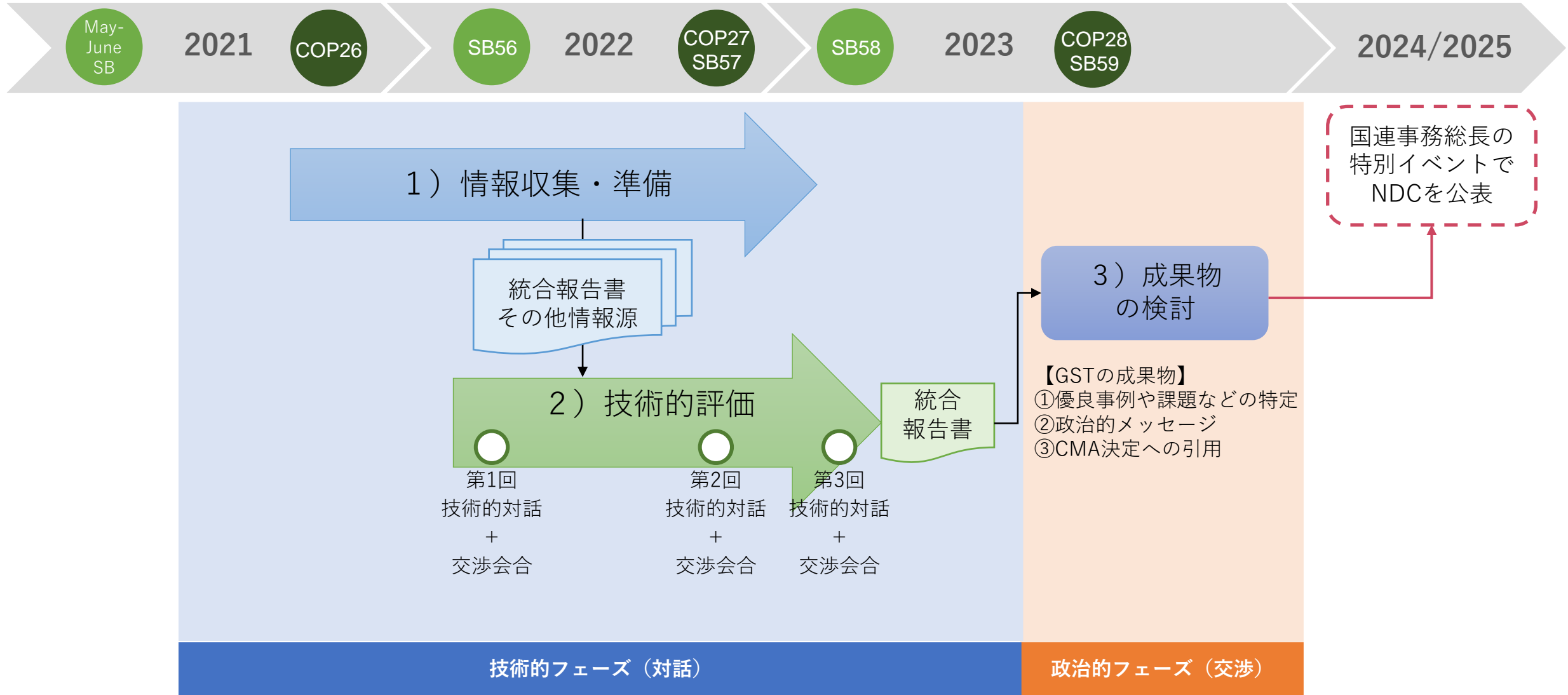
分野横断的課題

対応措置実施の影響
(気候変動対策の実施による
社会経済的な影響)

損失と損害

評価原則：「衡平性」「利用可能な最良の科学」

ポイント 2 : 技術的な議論と交渉は分けて実施する



ポイント 3：技術的対話というユニークな評価手法を採用

- 各国の交渉官や実務者、IPCC執筆者、国際機関／民間企業／NGOの代表が参加
- ラウンドテーブル、ワールドカフェなど複数の会議スタイルを採用
- 緩和、適応、実施手段と支援のテーマ別に機会と課題、取り得る対策や優良事例を共有



参加者間で「共有の理解（shared understanding）」を構築するための場

各国が異なる状況に置かれていることを理解し、参加者間で信頼関係を構築する。その上で、パリ協定の目標達成に向けて進むべき方向性についてより理解を深める

科学と政策のインターフェースとしての役割

GSTの成果を取り入れて削減目標を更新し、対策を強化する必要がある。政策担当者や実務者が検討や意思決定をサポートする

議論の内容まとめた「技術的対話の統合報告書」が公開（2023年9月）
統合報告書はCOP28の交渉のベースになる

「対話」から「交渉」へ

2023年



専門家レベル：成果に含めるべき内容について、意見書やセッション間ワークショップを通じて意見交換を行っている

ハイレベル：成果物への見解や期待について意見交換を開始した



セッション間ワークショップはYouTubeアーカイブあり
([1日目](#)、[2日目](#)、[3日目](#))

よく聞かれる質問、本日お伝えすること

なぜCOP28でGSTが重要なのか？

GSTが成功するとは？何が成果に含まれているべきか？

COP28での議論はどのように追えば良いか？

GSTの成功がもたらす影響。GSTの成果に含まれるべきもの。

GSTが成功すると・・・

- 2025年に提出されるNDC目標が強化される
- 気候変動対策の実施における非政府アクターの関与・参画が強化される



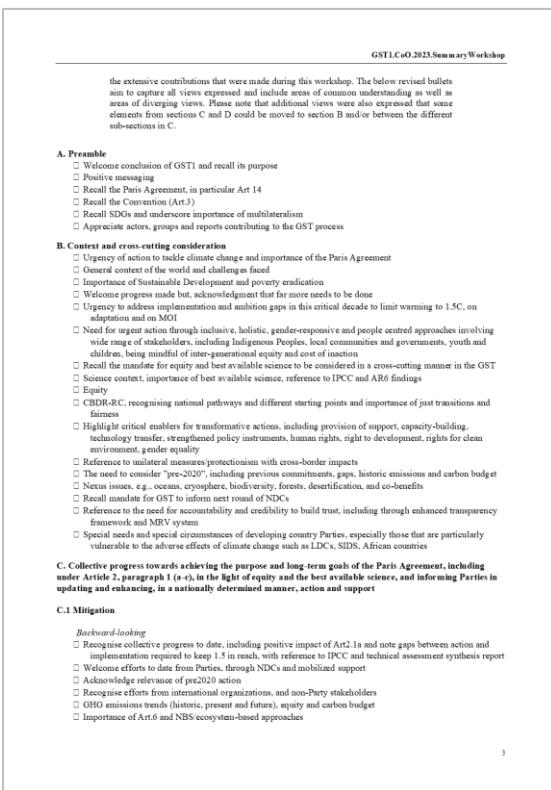
そのためにGSTの成果は・・・

ただの政治文書にとどまらず、この**10年における行動の指針**となるべき**いつ、誰が、どんな対策をどのように実施すべきか**を具体的に示す必要がある
政府だけでなく、非政府アクターにもメッセージを発信することが重要

NDCへのガイダンス／推奨事項

セクター別の目標や対策

成果物に含める内容を巡り、各国の意見の隔たりが明確化している



- 10月に実施されたセッション間ワークショップでの協議結果をまとめたもの
- 緩和、適応などのテーマごとに含めるべき要素がリスト化されている
- COP28で並行して実施される「適応」、「損失と損害」や「資金」の交渉結果もGSTで包括的に参照される予定

NDCへのガイダンス

NDCの更新・強化に向けたガイダンスを付与すべきか否か

資金フロー、実施手段と支援

資金フロー、実施手段と支援の位置付け

化石燃料や石炭火力

化石燃料の「段階的削減」を「段階的廃止」
石炭火力の完全撤廃

セクター別の目標

セクター別の世界全体の目標を設定すべきか否か

第1回GSTのフォローアップ

第1回GSTの振り返りを行うための意見書提出、対話の実施、議題設置

ポイント 1 : NDCへのガイダンス

提案されているガイダンスの例 :

- 全ての温室効果ガスとセクターを含めた絶対的排出目標の設定
- 1.5度目標と整合の取れた目標の設定
- 2030年の排出削減目標の再検討
- 1.5度目標と整合の取れた長期戦略の策定
- NDCに都市や非政府アクターの取り組みを反映させる

NDC更新のためのガイダンス／推奨事項を 含めるべきと主張する国の例

(*ただし「ガイダンス」の呼び方や内容に一部意見の相違あり)



EU



EIG



アメリカ



日本



・ カナダ



イギリス



中南米・カリブ海
独立連合



小島嶼国連合



アフリカ
グループ



NDCは”自国が定める”ものなので それにガイダンスを与えるべきではない と主張する国の例



同志途上国



中国

略語

EIG: Environmental Integrity Group (環境十全性グループ)

AILAC : the Independent Alliance of Latin America and the Caribbean (中南米・カリブ海独立連合)

AOSIS : Alliance of Small Island States (小島嶼国連合)

参照 :

セッション間ワークショップサマリー <https://unfccc.int/documents/632959>

各国のサブミッション <https://www4.unfccc.int/sites/submissionsstaging/Pages/Home.aspx>

ポイント 2 : セクター別の目標

ポイント

各国の提案ベースなので、全てのセクターでの目標設定が議論されているわけではない。

提案されているセクター別目標の例：

- 2030年までに再生可能エネルギーの容量を3倍にする
- 2030年までにエネルギー効率改善率を2倍にする
- 2030年までにネットゼロ森林破壊を目指す

セクター別目標設定に 前向きな国の例

(*ただし例示した全ての目標を明確に指示しているわけではない)



EU



EIG



アメリカ



イギリス

セクター別目標設定に反対 セクター別の議論も反対



同志途上国



中国



ブラジル



インド



アラブグループ

目標を設定するなら実施手段と 支援もセットで合意すべき



小島嶼国連合

略語

EIG: Environmental Integrity Group (環境十全性グループ)

LMDC: Like-Minded Developing Countries (同志途上国)

AILAC: 中南米・カリブ海独立連合 (チリ、ペルー、コロンビア、コスタリカ等)

AOSIS: Alliance of Small Island States (小島嶼国連合)

LDCs: Least Developed Countries (後発開発途上国)

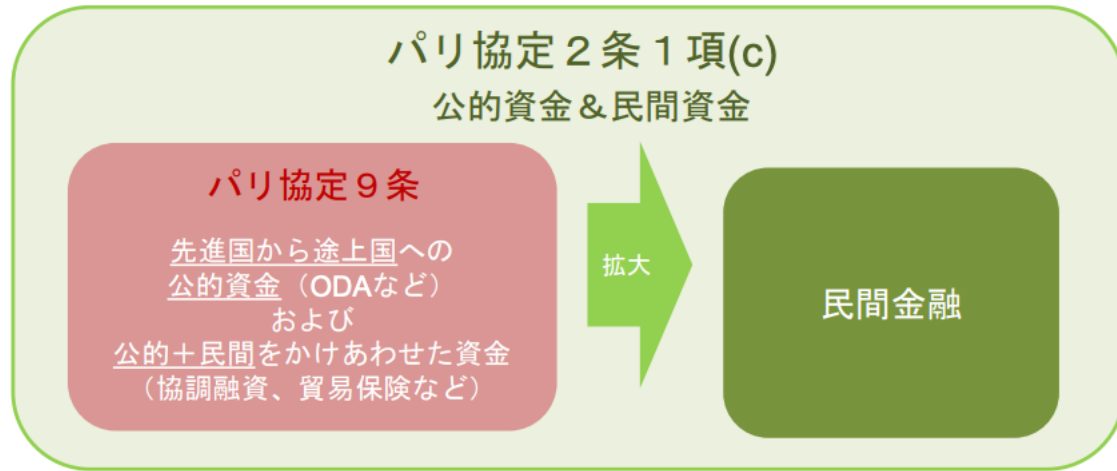
AGN: アフリカグループ

参照：

セッション間ワークショップサマリー <https://unfccc.int/documents/632959>

各国のサブミッション <https://www4.unfccc.int/sites/submissionsstaging/Pages/Home.aspx>

ポイント3：資金フロー、実施手段と支援（資金、技術移転、キャパシティ・ビルディング）



出典：IGES大田（2022）「COP27の焦点：変わりゆく資金フロー」

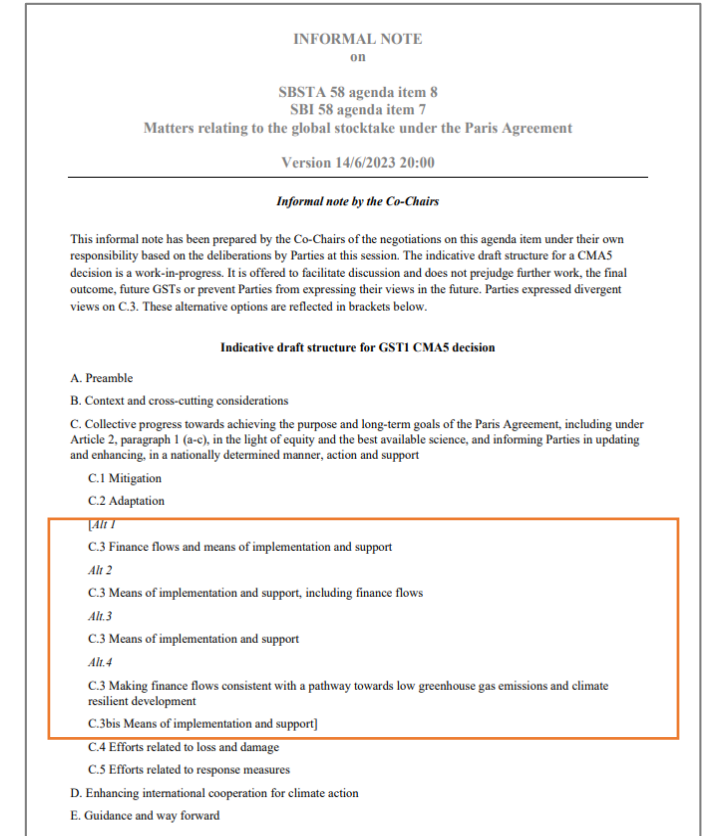
先進国

2条1項(c)は9条も含むより幅広い資金を対象としているので、GSTの成果は2条1項(c)と9条は別の章として情報を整理する



途上国

資金フローは実施手段と支援に含まれる



2023年6月に実施されたGSTの決定文書の「構成案」に関する協議でも合意できず

よく聞かれる質問、本日お伝えすること

なぜCOP28でGSTが重要なのか？

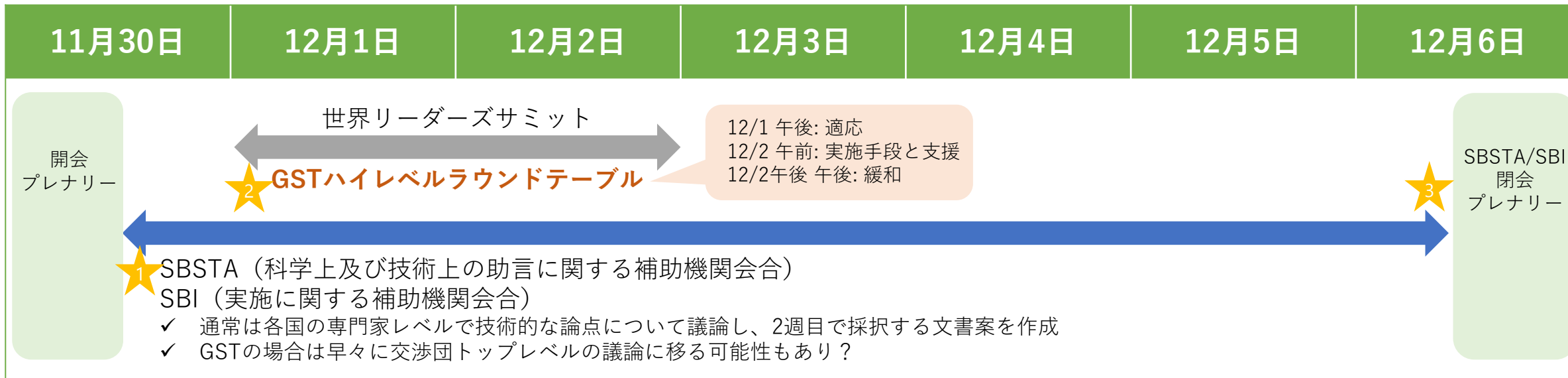
GSTが成功するとは？何が成果に含まれているべきか？

COP28での議論はどのように追えば良いか？

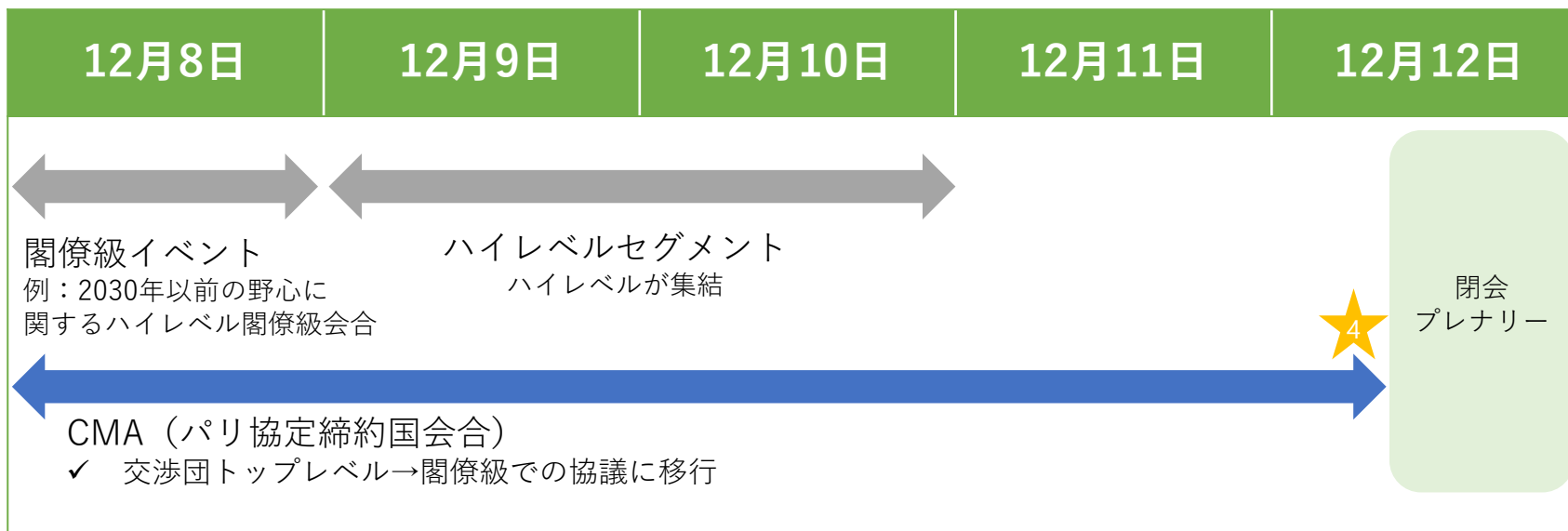
COP28におけるGST交渉スケジュール（予想）

7日は交渉休み

前半



後半



ここに注目！

- ★1 文書案初版公開
- ★2 閣僚級からのメッセージに注目
- ★3 前半終了時点の進捗チェック
- ★4 決定文書採択

その他、プレナリーや各種イベントでの各国の発言にも注目

 GST交渉
 主なイベント

まとめ

COP28の争点は第1回GST

排出削減目標（NDC）や今後の気候変動対策の強化につながる成果を出すことが期待される

GSTの成功とは

- 2025年に提出されるNDC目標が強化されること
- 気候変動対策の実施における非政府アクターの関与・参画が強化されること

成功に向けてGST成果は

- いつ、誰が、どんな対策をどのように実施すべきかを示した「行動の指針」となるべき
- 政府だけでなく非政府アクターにもメッセージを発信することが重要
- 具体的な中身として、NDCへのガイダンス、セクター別の目標や対策を示すことが必要

COP28に向けて

- 合意形成にむけた準備が専門家レベルとハイレベルで慌ただしく進みつつある
- 成果に盛り込む内容を巡り、各国で意見の対立が明確になりつつある
- 意見の隔たりを埋め、打開策を模索するためにもUAE議長国のリーダーシップが強く求められる

ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域／フェロー

津久井 あきび

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関